

平成28年度 学校評価報告書【年間評価実施結果】

視点	4年間の目標 (平成28年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (1月25日実施)	総合評価(3月21日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	・視覚障害による学習上または生活上の困難を主体的に改善・克服するための専門的な指導を系統的に行う。	○教員の視覚障害教育についての専門性を高め、それを授業力向上や維持・継承につなげられるようにする。	○①研究授業等の授業を見合う機会をできるだけ多く設定し、組織的な授業研究を実施する。 ○②学校全体で視覚障害教育に関する研修や研究に取組み、それを日常の授業にいかしていく。	○①授業研究を学校全体で推進し、それを日々の授業改善につなげることができたか。 ○②専門性の向上や継承に向けた組織的な取組みが実施できたか。	○①研究授業は計画通り実施でき、授業後の研究協議では授業力向上に向けた課題の分析や課題解決の手だてなどについて職員間で共通認識を図ることができた。 ○②プロ盲タイムの時間を有効に活用し、より実践的な研修や実務的な内容も含めながら、組織的な研修・取組みの場とすることができた。	○①今後も引き続き研究授業やプロ盲タイムなどの研究・研修を組織的に実施していく。 ○②研究・研修で得た知識や技能を日々の授業作りはどう還元していけるか様々なケースを考え、具現化していく。	○①教員が日々多くの研修の機会を持っていることはよく分かったので、今後はさらに多くの教員が参加でき、実のある研修となるよう様々な手だてを考えていく必要がある。 ○②教員だけでなく保護者対象の研修会も非常に有意義なものだと思う。また、地域のセンター的役割を果たすという意味では視覚障害乳幼児の保護者を対象にした研修会があっても良い。	○①②学部を超えた授業研究または新着任者研修やプロ盲タイムの実施により、一人ひとりの教員の専門性を高めるだけでなく、学校全体の教育力向上や視覚障害教育活動の一貫性・継続性にもつながってきている。	○①今後も学校全体の組織的な授業改善につなげていくために、授業研究や授業見学および研究協議等により多くの教員が積極的・意欲的に参加できるような時間設定や参加者等の仕組み作りを今まで以上に工夫していく。 ○②研究・研修で得た知識やそれぞれの教員が持っている技能を日々の授業作りだけでなく、他の教員や保護者にもどう還元していけるか様々なケースを考え、具現化していく。
2 幼児・児童・ 生徒指導・支援	・幼児児童生徒一人ひとりの実態をふまえ、課題を的確に捉え、個別教育計画にもとづいた指導や支援を組織的に行う。	○個別教育計画を軸として、幼児・児童・生徒の実態にあわせ、組織的な支援ができるようにする。	○個別教育計画の作成にあたり、複数の様々な立場の教員や専門職が関わるシステム作りを進め、目標や指導内容・方法についての一貫性を持って指導や支援にあたるようにする。	○複数の教員が組織的に個別教育計画の作成に関わり、実態把握や目標・手だてなどについて情報共有し、指導にあたることができたか。	○幼児児童生徒のここの実態・課題の把握または目標や手だての設定については個別教育計画を柱とし、保護者や専門職教員も含めた関係者の情報や意見をチームとして共有した上で作成し、教育活動につなげることができた。	○専門職との連携については、自立活動を中心に徐々に組織的な動きとなっているが、まだ限定的な部分もあり検討が必要と思われる。	○専門職の校内活用については、計画的にまた様々な機会を捉え、幼児児童生徒の実態やニーズに応じて実施していくことが望ましい。	○組織的な支援にむけた複数教員による個別教育計画の作成やケース会議の実施など、チームとしての教育活動を実践することができてきている。	○今後も個別教育計画の作成にあたり専門職も含め複数の教員が関わり、教員間や幼児児童生徒とのコミュニケーションを密にし、必要な情報を共有しながら支援にあたるようにしていく。
3 進路指導・支援	・幼稚部や小学部を含む早期から高等部まで自分の将来について主体的に考えられるように支援し、一貫した進路支援を行う。	○①幼児児童生徒一人ひとりの将来の生活の充実をめざした進路指導や支援を行い、学校全体での進路支援を行っていく。 ○②国家試験受検者が合格できるような指導を行う。	○①幼稚部から高等部専攻科までそれぞれの発達段階や課題・目標に応じて必要な支援を行い、キャリア教育の視点を持ちながら一貫性・系統性のある進路支援を実施する。 ○②一人ひとりの生徒の実態や学習状況に応じた丁寧な指導を行う。	○①幼児児童生徒の将来の生活を見据え、キャリア教育の視点を持ちながら一貫した進路支援を行うことができたか。 ○②国家試験にむけた効果的な指導を組織的に行うことができたか。	○①幼児児童生徒の実態やニーズまたはキャリア発達に応じた進路支援を行うため、本人や保護者との面談を丁寧に行ったり、関係教員でケース会議を適宜行ったりした。 ○①関係諸機関へ出向き、職場開拓を意欲的に実施した。 ○②国家試験合格にむけた取組みを予定通り進めた。	○①②今後も幼児児童生徒の実態やニーズを適切に把握し、常に中長期の視点を持った丁寧な進路支援を行っていく必要がある。	○①学校全体としての進路支援を考えていくためにも、進路先の幅を広げていく必要がある。 ○②国家試験合格がすべてではないが、まずは「医療関係の国家試験といえば平塚盲学校」と言われるような教育体制や特色作りも必要であり、それを外部にもっとアピールすべきである。	○①②幼児児童生徒一人ひとりの実態やニーズに応じて、将来のあるべき姿を常に考えた支援が行えるような手だてを考え、実践することができた。	○①②今後も、本人や保護者のニーズを的確に把握した上で、「学校全体の進路チーム」として進路支援にあたるように、組織的な動き方を整理し、各学部で共有していく必要がある。

4	地域等との協働	<p>・関係諸機関や地域とのつながりを強化し、連携・協力・支援体制を確立するとともに、視覚障害教育や盲学校に関する情報を発信する。</p>	<p>○福祉・労働・教育等の関係諸機関との連絡・連携や周知活動および情報提供などを活発に実施し、地域とのネットワーク作りを通して視覚障害教育や盲学校への理解を深める。</p>	<p>○周知活動や巡回相談支援などについて昨年度以上に効果的に実施できるよう、活動範囲や内容などを見直し、情報発信や情報収集を通して地域とのネットワーク作りができるように工夫していく。</p>	<p>○地域や関係諸機関と連携・協力しながら周知活動や巡回相談または防災活動やイベントを効果的に実施し、地域とのネットワーク作りの強化につとめることができたか。</p>	<p>○学校ホームページの更新をタイムリーに実施したり、関係諸機関への周知活動・リーフレット配付を実施し、外部への情報発信を活発に行った。</p> <p>○学校説明会を各学部で予定通り実施した。保専部については今年度より土曜日に学校説明会を実施し、参加しやすい日程設定となるようにした。</p>	<p>○引き続き学校についての周知活動を組織的に活発に行っていく。</p> <p>○今後、学校ホームページや学校案内リーフレットの内容を見直し、伝える必要がある情報がより分かりやすく、伝わりやすくなるような工夫をしていく。</p>	<p>○ネット社会の中で、ネットでの情報発信は重要であるので充実をさせていく必要がある。</p> <p>○将来的には病院等とも連携協力し、マッサージや鍼灸の総合センターとしての機能を持たせてはどうか。</p> <p>○視覚障害に関する保護者間の早期のネットワーク作りの必要性を感じている。そのためにも学校と保護者が連携しながら研修会やイベント等の機会を持っていきたい。</p>	<p>○盲学校に対する正しい理解や知名度アップにつながるような周知活動を計画通り実践することができた。</p> <p>○専門職の巡回相談支援は依頼に応じて実施することができているが、地域への情報発信という点においてはほとんどできていない。</p>	<p>○学校主催のイベントや従来の弱視レンズ展示会などの機会を活用し、地域とのネットワーク作りや学校からの情報発信を行っている。</p> <p>○視覚障害者に直接説明する機会を持つなど、今後は新しい発想を取り入れていく必要があると思われる。</p> <p>○盲学校における専門職のセンター的機能のあり方について今後検討していく。</p>
5	学校管理 学校運営	<p>・安心安全な学校作りを推進し、組織として指導体制や管理体制の見直しや整備を進める。</p>	<p>○①安全に安心して学校生活を送れるよう学校内外の環境整備や防災訓練等を効果的に実施する。</p> <p>○②職員全員で支えあい、助け合える風通しのよい職場環境作りを推進する。</p>	<p>○①定期的な安全点検や様々な発災状況を想定した防災訓練等を実施し、早期に危険箇所を把握したり、主体的に自分の身を守るようにする。</p> <p>○②必要な場面で「ほう・れん・そう」が徹底できるようお互いにコミュニケーションをとっていく。</p>	<p>○①学校内外の環境整備や防災訓練等を効果的に実施することができたか。</p> <p>○②職員間のコミュニケーションが活発に図られ、風通しの良い職場環境を作ることができたか。</p>	<p>○①火災時に速やかに学校敷地外に避難できるような訓練を実施した。</p> <p>○①「自助」の意識を持ち、主体的に自分の身を守るよう、シェイクアウト行動訓練や休み時間中の避難訓練を実施した。</p> <p>○①寄宿舎の夜間の防犯対策について警察や近隣のろう学校寄宿舎とも連携協力しながら対応の検討を進めた。</p> <p>○②事故や不祥事を未然に防ぐという視点も持ちながら、全職員で複数教員でのチェックやお互いの目配りや気配りを大切にしなが業務遂行を行った。</p>	<p>○①火災時の出火場所や震災時の建造物の被害状況に応じた第一次避難場所の設定をしていく必要がある。</p> <p>○①防災協定を締結している近隣施設との連携の内容についても再確認していく必要がある。</p> <p>○①夜間の防犯体制の具体策について、今後実施していく。</p> <p>○②チームとして業務遂行していく上で、業務内容を精査すると、長年にわたり単に習慣化しただけのものや形骸化したものも多く見られ、それが職場の風通しの悪さにもつながっていくことも考えられる。今後は現状の課題点の分析を正確に行い、改善に向けた取組を進めていく必要がある。</p>	<p>○①防災活動はあくまでも「自助」の意識が不可欠である。シンプルなマニュアル作りも進めてほしい。</p>	<p>○①幼児児童生徒が「自助」の意識を持てるような状況設定をし、防災訓練を効果的に実施することができた。</p> <p>○②全職員で職場での同僚性の重要性を継続的に確認しあい、風通しのよい職場環境作りに努めた。</p>	<p>○①防災訓練については様々な発災状況を想定しながら、対応をマニュアル化していく必要がある。</p> <p>○①防災協定を締結している近隣施設との連携の内容について再確認していく必要がある。</p> <p>○②今後も「不易流行」の両面を大切にしながら、必要に応じて職員の意識改善を進め、チームワークによる事故不祥事防止につなげていく必要がある。</p>